

経尿道的膀胱腫瘍切除術入院診療計画書

説明年月日: 年 月 日

推定される入院期間は、約 日間です

泌尿器科()病棟()号室

患者さま氏名

:病名・症状

入院目的

特別な栄養管理の必要性 有・無

	手術前日		術当日	
	年 月 日		月 日	
			術前	術後
処置	リストバンドを装着します。 2回/日血圧・体温・脈拍などの測定をします。	必要物品の確認をします。 前日に除毛をすることがあります。	手術着と弾性ストッキングに着替えてください。	帰室後は頻回に検温をおこない、全身状態の観察をします。
検査	採血・採尿などの検査がある場合があります。		病室にいてください。	尿道の管の横から持続的に膀胱を洗浄します。
薬剤	持参薬の確認と薬剤師による服薬指導があります。	寝る前に薬をお渡しします。	医師の指示した薬剤のみ内服します。	点滴を持続的に行います。 状況により、夜間の点滴を中止することがあります。
安静度	 特に制限はありません。		医師の許可が出るまでは起き上がれません。(足が動くようになれば寝返りできますが頭は上げないで下さい)	
排泄	退院まで尿を溜めてください。蓄尿方法は看護師が説明します。		朝、浣腸をします。	尿道に管が入ります。 排便はベッド上となります。
清潔食事	入浴ができます。	必ず入浴・洗髪をしてください。	絶飲食です。(午前手術は夕食から開始・午後手術は翌朝食から開始)	
説明・書類確認	看護師から病棟案内・入院生活の説明があります。 看護師から手術までの流れ、必要物品の説明があります。 医師から手術前の説明を行います。⇒(/ 、 時頃より) 手術室担当看護師の術前訪問があります。 麻酔科医の術前訪問があります。 手術までに各種同意書の提出をしてください。		手術室に看護師と主治医が一緒に行きます。	手術の経過については主治医が説明します。 何かあればナースコールをしてください。 

主治医署名

、主治医以外の担当者署名

、説明看護師署名

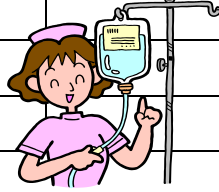
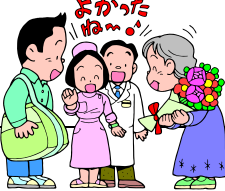


上記のとおり説明を受けました

同意年月日: 年 月 日

患者本人署名

親族又は代理人署名

患者との続柄()

	術後1日目	術後2日目～3日目	術後4日～退院日
	月 日	月 日～月 日	月 日～月 日
処置	3回/日検温します。	2回/日検温します。	1～2回/日検温します。
	 <p>毎日看護師が6時・14時・20時に尿の袋を空にします。</p> <p>・弾性ストッキングを脱ぎます</p>		
検査	採血がある場合があります。	尿道の管が抜けたあと検尿が1回あります。	
薬剤	内服再開です。 点滴が終了します。	退院までに、薬剤師より退院後の内服について説明があります。	
安静度	病棟内の歩行ができます。初回は看護師と一緒にいきます。	特に制限はありませんが、体を動かすことで尿の色が赤くなることがあります。尿が赤くなったら看護師に連絡してください。	
排泄	<p>医師が状況を見て尿道の管を抜きます。抜けた後は蓄尿を再開してください。</p> <p>排便時いきんだり、腹圧をかけないで下さい。出血の原因になります。</p> 		
清潔	朝、洗面タオルを渡します。 清拭・陰部洗浄をします。	シャワー浴が出来ます。体調や尿の状態により清拭になります。	
食事	通常の食事ができます。		
説明	<p>飲水は1日1500～2000ml行ってください。</p> <p>血尿が出たら安静にし、ナースコールを押してください。</p> <p>尿道の管が入っている間は、尿の袋を腰から上に上げないで下さい。膀胱に尿が逆流し、感染の恐れがあります。</p>		<p>パンフレットを用いて退院後の生活について説明します。疑問点があればいつでも看護師に声をかけてください。</p>

注1) 診療内容などは現時点で考えられるもので、今後治療などを進めていくに従って変更する場合があります。その場合には再度ご説明致します。

注2) 入院期間については、現時点で予測されるものです。